

「飽くなき品質とコストの改革で
適正価格で良い家を建てられる環境をつくり、
地域のまちづくりに貢献していきたい」



伊東総建

代表 伊東 伸幸

KEY WORD

利他

— rita —

スーパーゼネコンに就職して10年勤務した後、
地元の建設会社でも経験を蓄積し、2017年に独立した伊東代表。
奄美大島の建築価格の高騰を憂慮し、地元の人たちに
良いものを適正価格で提供したいという思いから一歩を踏み出したという。
振り返れば、代表の選択はいつも自分のためではなく、人のためだった。
弟のために頑張った日々があった。家族のために帰郷して地元で働んだ。
そして現在は「地域の人たちのために」との思いで努力を続けている。
自分よりも他人の幸せを願う「利他」の精神を胸に、代表は歩み続けていく。



建設工事全般／特殊分野：コンクリート外断熱打込工法



伊東総建

Itosoken

鹿児島県奄美市笠利町大字宇宿（土盛）2204-4

URL : <https://itosoken-amami.com>

より良い家を届け、人々の暮らしを支える 奄美大島のまちづくりに貢献する 建築のプロフェッショナル集団

一般住宅からビル、マンションなど様々な建物の新築・増築・改築工事を手掛ける『伊東総建』。2017年の創業から8年になる建築会社で、飽くなき品質・コストの改革で、より良い家をより多くの人に届けるべく、日々励んでいる。本日はタレントのつまみ枝豆氏が同社を訪問し、伊東代表にお話を伺った。

まずは、伊東代表の歩みから伺います。

ここ奄美市の出身です。貧しい家庭で育ち、両親は口には出しませんでした。高校卒業後は就職してほしいと願っていたと思います。けれども私は就職するつもりはなく、将来に迷っていました。そんな高校2年の夏ごろ、友人から新聞奨学生制度を教えてもらい、お金がなくても大学に行ける道があると知りました。そこで先生に相談したところ、建築学科が向いていると勧められました。それで勉強して推薦を頂いて『九州産業大学』工学部建築学科に進学することができました。

奄美を離れ、新聞配達をしながら学ぶ日々は大変だったのでは。

ええ。深夜に起きてチラシをセットし、朝刊を配達してから大学へ。授業が終われば夕刊の配達に向かうという毎日でした。でも、この制度のお陰で学費や生活費を賄うことができたので、本当にありがたかったですね。

まさに努力の賜物ですね。卒業後はすぐに建築業界へ？

本当は卒業後すぐに奄美に戻るつもりだったんです。でも、たまたま受けた『鹿島建設』の採用試験に合格しました。最初はあまり詳しくなかったのですが、後から日本を代表する大手ゼネコンだと知りました（笑）。1991年に関西支店に入社し、2001年までの10年間、現場で経験を積みました。

『鹿島建設』といえは超大手。定年まで勤めれば安泰だったはずですが、なぜ辞める決断を？

色々な事情が重なったんです。私自身が家族性大腸ポリポシスで手術・入院を経験し、しばらくして弟も病気で入院することになりました。弟の病院に寝泊まりしながら仕事を続けた時期もありましたが、当時はまだ働き方改革なんてない時代。長時間労働が当たり前で、仕事と家族の世話を両立するのは難しい状況

つまみ枝豆

タレント

「どんな時でも自分のことは二の次。ご家族や周りの方々のことを大事に思いながら歩んでこられた伊東代表。かつての自分と同様に金銭面などで苦勞する方々の力になりたいという思いも強く、“地域のために励む正義の味方”という印象を受けました。代表のこれからのさらなるご活躍が、本当に楽しみだと感じましたよ！」





伊東 伸幸

代表

Profile

鹿児島県奄美市出身。高校卒業後、『九州産業大学』の工学部建築学科で学び、卒業後は『鹿島建設』に入社して10年間勤務。地元の建設会社2社を経て2017年に『伊東総建』を創業する。一級建築施工管理技士、一級土木施工管理技士などの資格を持つ。

でした。そして両親が高齢だったこともあって、最終的には会社を退職して弟を連れて奄美に戻る決断をしました。

「ご家族のための決断だったんですね。奄美に戻られてからはどうされて？」

「『鹿島建設』を辞めた2日後には地元の建設会社に就職しました。というのも、10年間働きながら家に仕送りをしていたこともあって、すぐに働かないと生活が成り立たなかったんです。そちらに12年間勤めた後、別の建設会社でも4年間勤務。そして2017年に独立して『伊東総建』を設立するに至りました。

「長くお勤めをされましたし、満を持しての独立という感じだったのでしょうか。」

そうですね。ただ、最初から独立を考えていたわけではなく、資金面の問題もあってなかなか踏み切れませんでした。実際に独立した時も資本金がゼロに近い状態でのスタートだったのです。でも、大学進学の時も同じような状況から道を切り開くことができましたし、やってみれば何とかなるものですね。そして事業を始めて今年で8年。様々な方からの支えのおかげで、歩んでくることができました。

「ご創業にあたって、どのような思いを持っておられたのでしょうか。」

サラリーマン時代に出会ったコンクリート外断熱打込工法を奄美に広めたいという思いがありました。また、奄美大島では資材の価格上昇に加え、輸送コストなど離島特有の事情も影響して、建築費が大きく膨らんでいます。そのため、適正な価格で家を建てるのが難しいのが現状です。私自身、貧しい家庭で育ち、家を建てるのが遠い夢だった時期がありました。だからこそ、「経済的な理由で諦めるのではなく、安心して

て家を建てられる環境を整えたい」という強い思いがあります。もちろん、材料費や人件費の高騰は避けられませんが、便乗値上げなどはせずQC（品質・コスト）改革を行い、適正価格で提供すべきだと考えています。

「地域の人たちにとって、大変ありがたい存在ですね。意義深い事業です。」

コンクリート外断熱打込工法は「コストが高くなる」と思われがちですが、実は内部の断熱材が不要なため内部仕上を簡素化できることから、それほど高額にはなりません。むしろ気密性が高く、建てた後のランニングコストが大幅に削減できるというメリットがあります。こうした知識を広め、施主さんの選択肢を増やしていきたいと思っています。

「代表は親御さんのため、弟さんのため、地元の人のためというように、いつも人のために尽くしていらっしゃいますね。」

前述したように、私自身が周りの方々に支えてもらっていますから。現場では様々な職人さんとの繋がりができ、独立後もたくさんの方に協力してもらっています。そのお陰で家を建てるができるんです。本当に感謝の念が尽きません。

「長年の経験の中で培ってきた繋がりが、御社の強みだと感じます。最後に、これからの長期的な目標をお願いします。」

まずはコンクリート外断熱打込工法の良さを多くの方々に知ってもらい、普及させていくこと。そして、高品質な住宅を適正価格で提供していくことです。また、公共工事にも力を入れ、地元の人や地域のまちづくりに貢献していけたらと思っています。長年にわたって建築に携わってきたので、その中で培ってきた知識や経験、人脈を活かして仕事を続けていく所存です。

『伊東総建』が掲げる、「飽くなき品質・コスト改革」

▼『伊東総建』が掲げるのは、「飽くなきQC（品質・コスト）改革」。奄美大島では建築費の高騰が続く、業者の価格設定も一定の傾向が見られる中、伊東代表は「良いものを、できる限り負担の少ない価格で提供したい」という強い思いを胸に、地域の人々がリーズナブルに良質な住宅を建てられる環境づくりに注力している。

▼その中でも特に力を入れているのが、「コンクリート外断熱打込工法」だ。この工法では、断熱材を組み込んだ特殊外壁材を型枠兼用で使用し、その中にコンクリートを流

し込むことで、冷気や暖気を遮断。これにより、夏は涼しく、冬は暖かい快適な住環境を実現している。さらに、室内温度の安定による結露の解消や、CO₂の削減、年間光熱費の節約など、多くのメリットがある。

▼まだコンクリート外断熱打込工法は広く知られていない部分もあるが、実際にこの工法で建てた家に住んでもらえば、その快適さが実感でき、自然と広がっていくはずだ。より良い家を、より多くの人に届けるために、代表たちは、これからも歩みを止めることなく挑戦を続けていく。